# 2024年10月期 第2四半期 決算説明会

2024/6/21



# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績 6
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正 ..... 15
- N. アクシーブの見通し ..... 24
- V. 新剤・新技術の開発状況 ······ 37
- VI. 気候変動・環境負荷の低減 ..... 40
- VII. 質疑応答



# 本日のアジェンダ

### I.事業環境

- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- VII. 質疑応答

#### ( ) クミアイ化学工業株式会計

### 事業環境動向

#### ロシア・ウクライナ紛争の長期化、緊迫感高まる中東情勢

- ・直接的な取引は少ないものの、原材料費や製造コスト、物流コスト増
- ・コムギ等の生産地であるため世界の穀物価格や作付状況への影響を注視

#### 原油・ナフサ価格

・中東やウクライナにおける地政学リスクに起因した上昇局面もあり、 依然、高値圏で底堅い

#### 対ドル為替動向

・前年同期135円→当第2四半期149円(平均レート)

#### 穀物市況

・ロシアのウクライナ侵攻により最高値を更新するも、 現在はピークアウトし侵攻前の水準に戻りつつある



### 農薬市場の動向

- √2023年は農薬価格の低下や世界的な在庫調整の影響により、前年並み
- √2024年も世界的な在庫調整の動きは残るものの、流動在庫水準が適正化することで

再び成長基調に転じると予想 長期的な成長トレンド ✓ 国内は3,500億円前後で横ばい (億ドル) 748 748 582 <sup>593</sup> <sup>608</sup> 569 559 563 ■中東・アフリカ ■アジア 中南米 ■ヨーロッパ 北米

2018 2019

出典: Aqbioinvestor(世界市場)、クロップライフジャパン(国内市場)

2012 2013 2014 2015

2016 2017

2027F

# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- VII. 質疑応答



# 2024年10月期 第2四半期実績

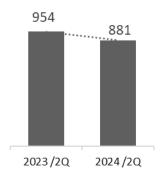
(単位:億円)

(   12 - 1/6/1 3)							
	2023 /2Q 実績	2024 /2Q 実績	前年同期比	増減率	2024 /2Q 業績予想 (12/14)	予想比	増減率
売上高	954	881	<b>▲</b> 73	▲8%	920	▲39	<b>▲</b> 4%
売上総利益	233	201	▲32	<b>▲</b> 14%	-	_	-
営業利益	127	88	<b>▲</b> 38	▲30%	90	<b>▲</b> 2	<b>▲</b> 2%
—————————————————————————————————————	135	130	<b>▲</b> 5	<b>4</b> 4%	110	+20	+18%
親会社株主に帰属する四半期純利益	102	93	<b>▲</b> 9	<b>▲</b> 9%	80	+13	+17%
参考: 平均レート	¥/ドル=135	¥/ドル=149			¥/ドル=140		

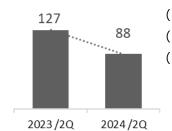


#### 前年同期比 ▲73 億円

#### 前年同期比 ▲38 億円



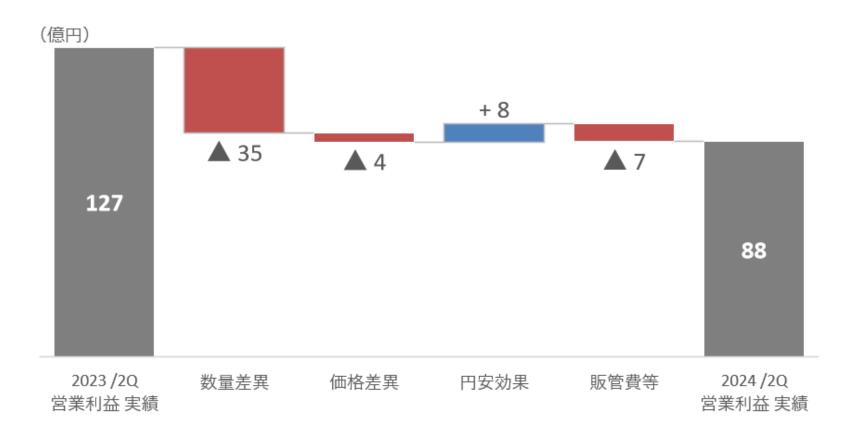
(-) 農薬の世界的な 在庫圧縮基調の継続による出荷減



- (-)農薬事業の減収
- (-)原燃料費、物流コスト増に伴う原価上昇
- (-) 販管費の増加



# 営業減益の要因





# 2024年10月期 第2四半期実績(セグメント別)

(単位:億円)

		2023 /2Q 実績	2024 /2Q 実績	前年同期比	増減率
売上高		954	881	<b>▲</b> 73	▲8%
	農薬及び農業関連	795	723	<b>▲</b> 71	<b>▲</b> 9%
	化成品	109	116	+7	+7%
	その他	51	42	<b>▲</b> 9	<b>▲</b> 18%
営業利益		127	88	<b>▲</b> 38	<b>▲</b> 30%
	農薬及び農業関連	130	87	<b>▲</b> 43	<b>▲</b> 33%
	化成品	1	4	+3	+280%
	その他	5	6	+1	+23%
	(調整額)	▲ 9	▲ 9	+1	





### 農薬及び農業関連事業

#### 国内

- 水稲用除草剤「エフィーダ剤」が順調に推移
- 水稲用殺菌剤「ディザルタ剤」を含む箱処理剤も順調に推移
- 一部製品の終売を見越した販売先の在庫圧縮

#### 海外

■ 世界的な在庫圧縮基調の継続







### 化成品事業

#### 塩素化

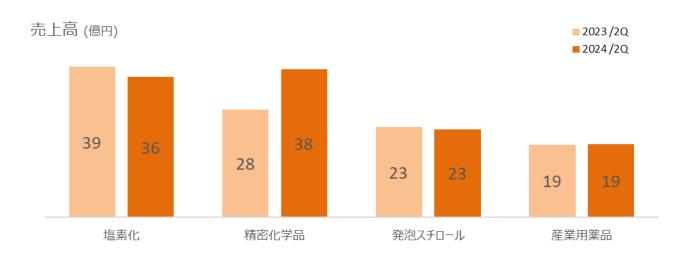
■ 販売先の在庫調整等の影響によりクロロトルエン系化学品の出荷が減少

#### 精密化学品

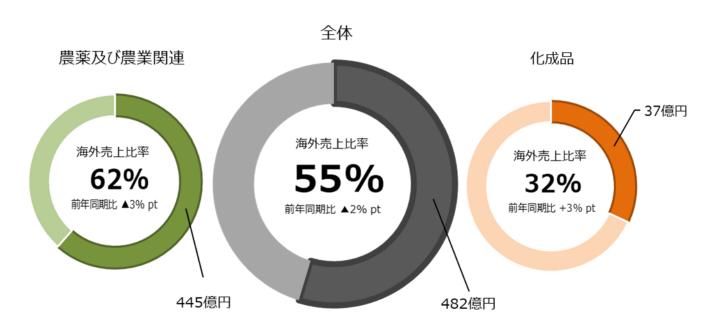
■ 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷が大きく増加

#### 発泡スチロール・産業用薬品

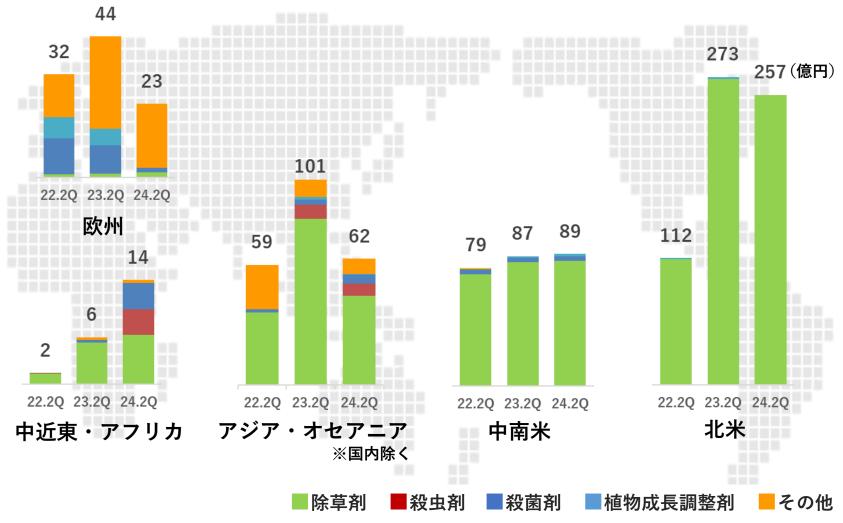
■ 前年並みで推移



### 2024年10月期 第2四半期実績(海外売上高比率)



### 地域別・用途別 売上高(農薬及び農業関連事業)





# 2024年10月期 第2四半期実績 総括



#### 事業全体

881 億円 (前年同期比 ▲73億円) 売上高

88 億円 (前年同期比 ▲38億円) 営業利益

130 億円 経営利益 (前年同期比 ▲5億円) アクシーブの減収

・原価上昇や販管費の増加による利益の押し下げ

持分法投資利益減も、為替差益増により減益幅縮小



#### 農薬及び農業関連事業

723 億円 (前年同期比 ▲71億円) ・世界的な在庫圧縮基調の継続による出荷減 売上高

**87** 億円 (前年同期比 ▲43億円) 営業利益



#### 化成品事業

116 億円 売上高 (前年同期比 +7億円)

> 4 億円 (前年同期比 +3億円)

・半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷が大きく増加

・販売先の在庫調整等の影響によりクロロトルエン系化学品の出荷が減少



営業利益

#### その他事業

42 億円 (前年同期比 ▲9億円) 売上高

6 億円 (前年同期比 +1億円) 営業利益

・印刷事業、物流事業が堅調に推移

建設業の繰越丁事高が前年同期に比べ減少

# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- WI. 質疑応答



# 2024年10月期 通期業績予想の修正(前回予想比)

(単位:億円)

—	,				
		2024 業績予想 (12/14公表)	<b>2024</b> <b>修正予想</b> (6/4公表)	前回予想比	増減率
売上高		1,670	1,550	▲120	<b>▲</b> 7%
	農薬及び農業関連	1,330	1,240	<b>▲</b> 90	<b>▲</b> 7%
	化成品	260	230	▲30	<b>▲</b> 12%
	その他	80	80	+0	+0%
営業利益	益	120	100	▲20	<b>▲</b> 17%
経常利益	± ±	150	155	+5	+3%
親会社村	朱主に帰属する当期純利益	110	120	+10	+9%
	4. 亚约. L	V/1°H 140	V/I°II 14E		

参考:平均レート

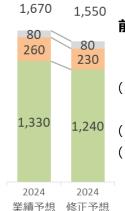
¥/ドル=140

¥/ドル=145

#### 通期売上高

#### 通期営業利益

#### 通期経常利益



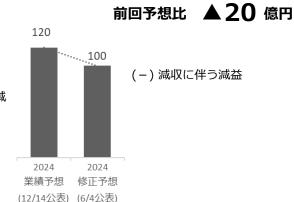
(12/14公表) (6/4公表)

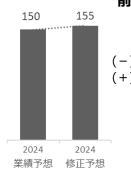
#### 前回予想比 ▲ 120 億円

(-)農薬の世界的な 在庫圧縮基調の継続による出荷減 (-) アクシーブ ▲78億円

(-) 化成品事業▲30億円

■農薬 ■化成品 ■その他





(12/14公表) (6/4公表)

# 前回予想比 十5 億円

(-) 為替差損益 ▲14億円

(+) 持分法投資利益+35億円



# 2024年10月期 通期業績予想の修正(前期比)

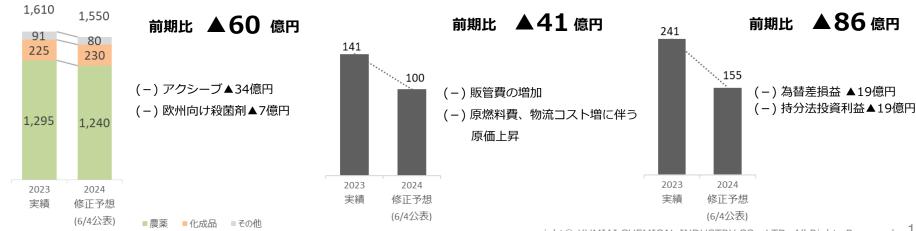
(単位・億円)

$(\pm i\pi$	· [四] 1)				
		2023 実績	<b>2024</b> <b>修正予想</b> (6/4公表)	前年比	増減率
売上高		1,610	1,550	<b>▲</b> 60	<b>▲</b> 4%
	農薬及び農業関連	1,295	1,240	<b>▲</b> 55	<b>▲</b> 4%
	化成品	225	230	+5	+2%
	その他	91	80	<b>▲</b> 11	▲12%
営業利益	益	141	100	<b>▲</b> 41	▲29%
経常利益	± ±	241	155	<b>▲</b> 86	<b>▲</b> 36%
親会社株主に帰属する当期純利益		180	120	<b>▲</b> 60	▲33%
	参考: 平均レート	¥/ドル=140	¥/ドル=145		

参考:半均レート 通期売上高

通期営業利益

通期経常利益



# 2024年10月期 通期見通し(農薬及び農業関連)

### アクシーブ(除草剤)

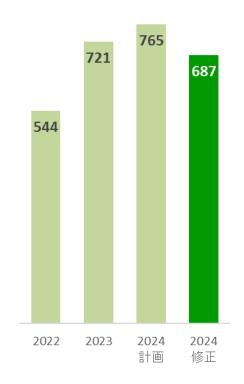
#### 2023年度までの増収の背景

- ■除草剤抵抗性雑草への高い効果
- ■穀物価格の高騰による農家の購買力向上
- ■円安効果

### 2024年度は 売上高687億円

- 世界的な在庫圧縮基調の継続 アメリカ、オーストラリア、ブラジル向けの出荷調整を実施
  - ⇒末端での販売は拡大傾向 除草剤抵抗性雑草の拡大を背景に末端での販売は拡大傾向
- アルゼンチンでの販売が増加 輸入規制が緩和されたことによる出荷増

アクシーブ売上高(億円)



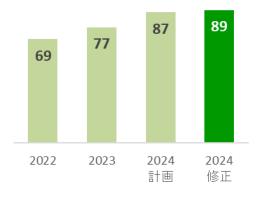
# 2024年10月期 通期見通し(農薬及び農業関連)

### エフィーダ(除草剤)

#### 2024年度は 売上高89億円

- 効果の高さとイネへの安全性が評価され販売好調
- 今期から国内で「シンゲキ」を上市
- 既に販売を開始している韓国に加え、
  欧州にてコムギ・水稲用除草剤として登録申請

#### エフィーダ売上高(億円)



### ディザルタ(殺菌剤)

#### 2024年度は 売上高29億円

- 安定した効果が評価、順調な販売が続く
- 今期から国内で「ブーンハーデス」を上市
- 既に販売している韓国に加え、今後も海外開発を推進

#### ディザルタ売上高(億円)



#### () クミアイ化学工業株式会社

# 2024年10月期 通期見通し(化成品)

#### 塩素化

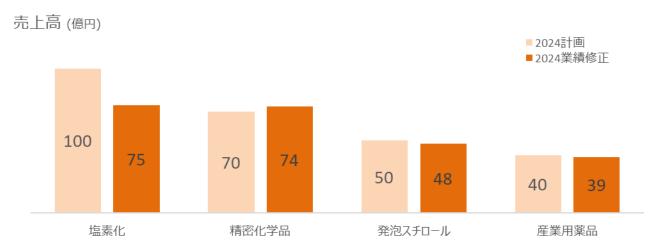
- アラミド繊維の原料となる製品の出荷が想定を下回る見込み
- 主要顧客での在庫調整や中国での景気減退による需要減

#### 精密化学品

■ 半導体需要の回復により、ビスマレイミド類の出荷が増加

#### 発泡スチロール・産業用薬品

■ 前回予想並み

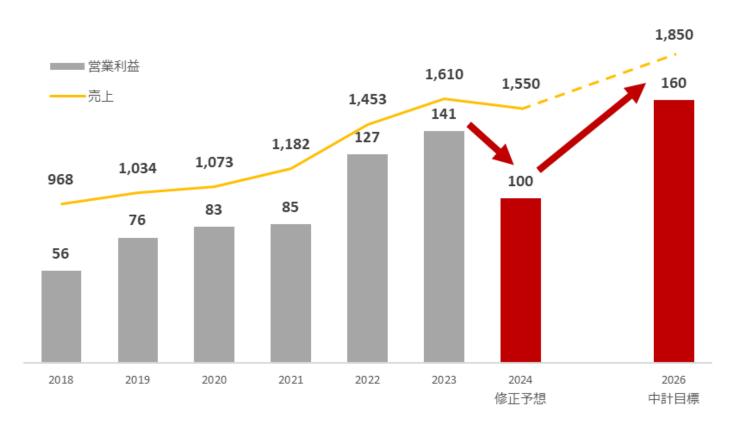




### 2026年中計目標は維持

#### 現中期経営計画期間はコスト増が見込まれるものの、2026年度には過去最高益の達成を目指す

売上高および営業利益推移(億円)





# 株主還元施策

#### \_配当性向30%以上を目標

### 2024年度 配当予想(6/7修正発表)

中間配当10円+期末配当20円=年間配当30円(配当性向 30.1%) 前回予想18円 (円) より2円増配 60 35% 1株当たり配当金(円) 配当性向 30% 50 54.1 25% 40 配当総額 20% 36.1億円 30 15% 26.4 20 18.8 10% 10 5% 0 0% 2014 2022 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2023 2024予想

### 研究開発費・設備投資・減価償却費

#### 研究開発費

2023年度実績 62億円

→ 2024年度見込 **72**億円

(主な内容) 海外開発への取り組み強化、最先端技術の活用による研究推進

#### 設備投資

2023年度実績 87億円



2024年度見込 102億円

(主な内容) 老朽化した生産設備の更新、化成品関連のプラント・設備の新設

#### 減価償却費

2023年度実績 44億円



→ 2024年度見込 51 億円

新化学研究所(ShIP)や生産設備への設備投資に伴う減価償却費の増加 (主な内容)

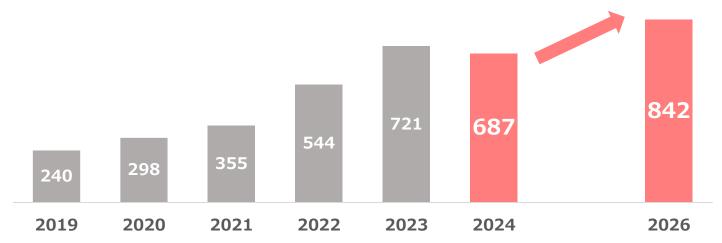
# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- WI. 質疑応答

#### ◆ クミアイ化学工業株式会社

### アクシーブの中期売上目標





### ①主要地域での拡販・販売地域の拡大

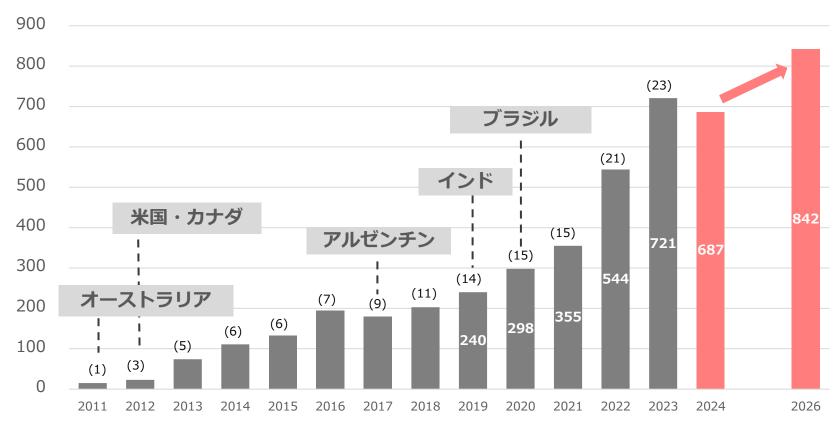
### ②ジェネリックへの対応

### ③混合剤開発促進



- 穀物の主要牛産国での販売拡大(ダイズ、トウモロコシ、コムギ)
- 抵抗性雑草の特効薬として販売拡大
- パートナー販社が有する有効成分との混合剤開発を進める





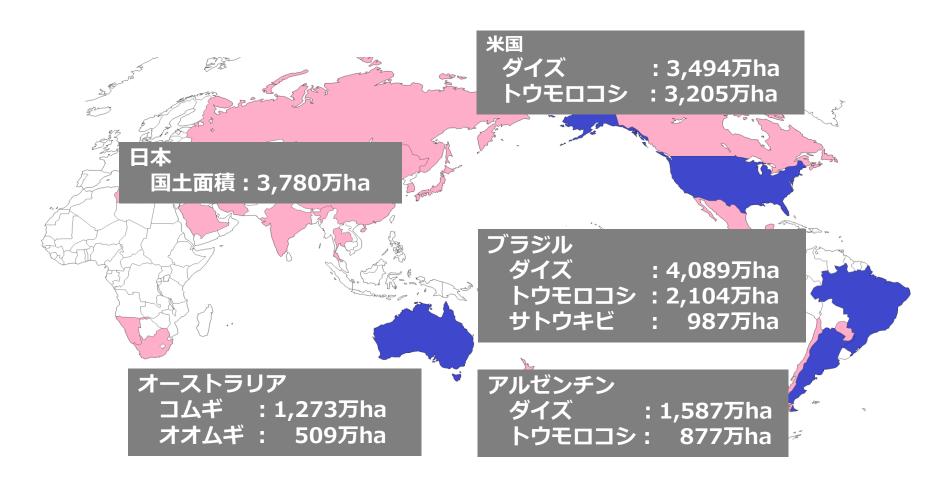


- 23カ国 で登録取得、継続して混合剤開発、適用拡大中
- さらに **9カ国** で開発中





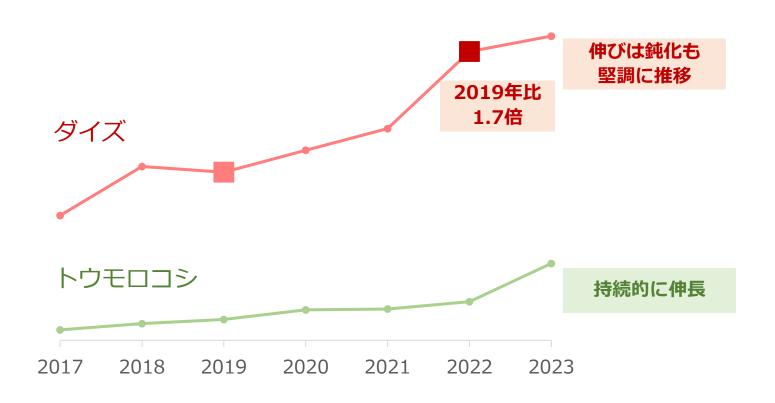
■ 世界の巨大な穀物市場で、アクシーブ販売拡大に向けた開発が進行中



出典:FAO(2022年穀物作付面積)



米国 におけるアクシーブ使用面積推移 (当社調べ)



### 当面、ジェネリックの参入は限定的 (全市場の1/4)

### オーストラリア・アルゼンチン

- ■登録データの独占的使用期間なし
- ➡ ジェネリック品の参入が容易

オーストラリア:2022年参入

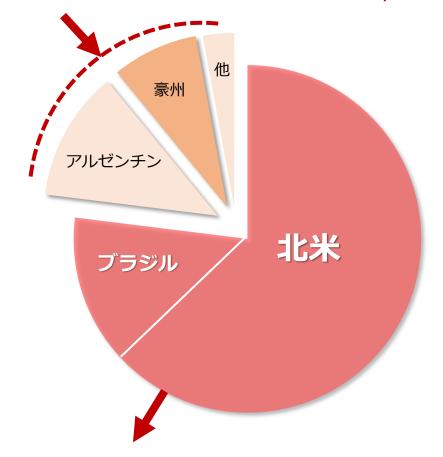
アルゼンチン:2024年参入見込

#### 北米・ブラジル

■登録データの独占的使用期間継続中

米国:2025年まで

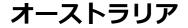
ブラジル:2030年まで



全市場の 3/4 はジェネリック品は **容易に参入できない** 



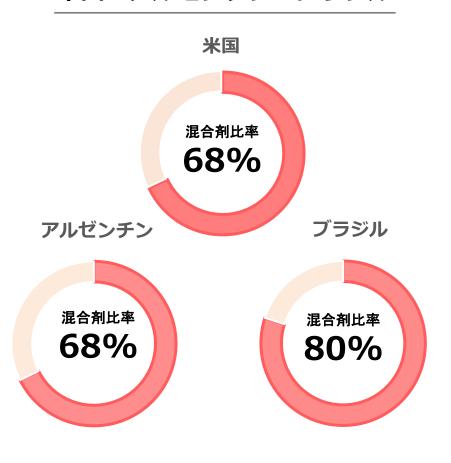
### 各国の混合剤比率(2023年度) ※散布面積割合 当社調べ





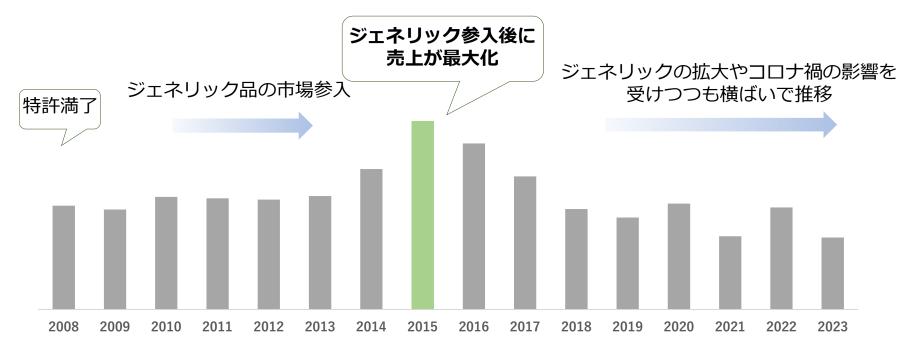
- ■アクシーブ混合剤の市場が少ない
  - ➡ ジェネリック品が参入しやすい環境
- ■価格対策実施とシェア維持
- ■違法品、特許権侵害品には断固とした対応

### 米国・アルゼンチン・ブラジル



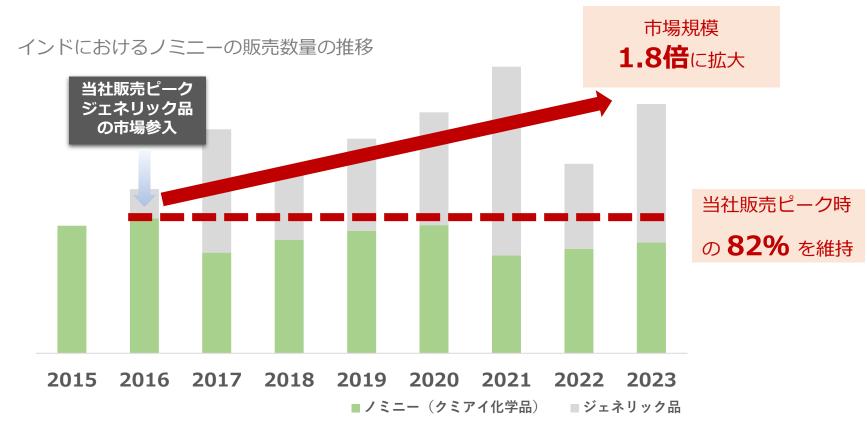
#### ✓ノミニー(水稲用自社開発除草剤)を例にとると・・・

ノミニーの売上推移



→ アクシーブはターゲット市場が多く 継続して開発・普及が期待できる

∨インドにおけるノミニー(水稲用自社開発除草剤)を例にとると・・・



ジェネリック参入後に市場が拡大

⇒ ジェネリックに一方的に負ける状況を作らないことが重要



### ②ジェネリックへの対応(オーストラリア)

### ADAMA Australia Pty Limited を 特許権侵害で提訴

2024年4月30日 クミアイ化学工業株式会社

各位

ピロキサスルホン製品に対する特許権侵害訴訟手続きの開始について

クミアイ化学工業株式会社(本社:東京都台東区、代表取締役社長:高木誠、以下、「当社」)は、ピロキサスルホンを含有する除草剤「Sakura® 850 WG」を製造しています。「Sakura® 850 WG」は長年にわたりオーストラリアの市場において使用され、高い信頼を得ています。また、当社は、ピロキサスルホンに関わるオーストラリアを含む世界的な特許ポートフォリオを保有しています。

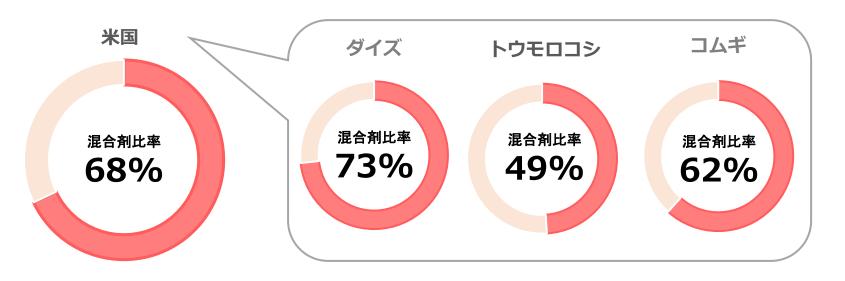
今般、クミアイ化学は、オーストラリアにおけるピロキサスルホンを含有する製品「Novali® 850 WG」の販売会社である ADAMA Australia Pty Limited に対し、当社が保有する知的財産権に基づき、2024 年 4 月 26 日付で特許権侵害訴訟を提起しましたので、お知らせいたします。

当社は、知的財産権が農薬産業にとって非常に重要であると考えており、オーストラリア および世界中で知的財産権の行使に取り組んでいます。 ピロキサスルホン(一般名)

|| **アクシーブ** (ブランドネーム)

# ③混合剤開発促進

#### 米国の混合剤比率(2023年) ※散布面積割合 当社調べ



- ■米国などは混合剤が多い市場であるため ジェネリック参入はオーストラリアとは異なる形を想定
- → 混合剤特許が有効

### ③混合剤開発促進

#### 米国における混合剤およびプライベートブランドの開発状況

製品名	2022	2023	2024	2025	2026	
FortiTRI(PB)	*	*			<del></del>	
Annihilate(PB)		*	*		<del></del>	
Spyromax(PB)		*	*			
Maverick		*	*		2026	6年以降も複数の混合剤、
Storen		*	* ==		- PBを	:販売開始予定
Surtain				**		
***						

☆ = 上市(販売開始) ★ = 本格販売開始

(PB)=プライベートブランド:ディストリビューター(卸)独自の製品ブランド

- → 継続的な混合剤開発によるジェネリック対策
- ➡ ディストリビューター(卸)にPBを持たせることで、 販売意欲を高め、 シェア拡大を図っている

# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- WI. 質疑応答

### 新剤・新技術の開発状況

### 新剤の開発

■ フルペンチオフェノックス (殺虫剤)

抵抗性が発達しているダニに対しても効果を有する新規作用性の 殺ダニ剤として開発中。2023年5月に登録申請済み。

■ エコアーク (微生物農薬)

難防除病害であるブドウ根頭がん腫病に効果を示す世界で唯一の 農薬として開発中。2022年12月に登録申請済み。

### 新技術の開発

- 微生物を活用したバイオスティミュラントの開発
- 農地から発生するメタンガスの発生抑制技術(国際特許出願済み)

メタン生成阻害剤を発見 →実用化に向けた検討を推進中

#### () クミアイ化学工業株式会社

### 新剤・新技術の開発状況

名前	分野	実用性評価段階	開発段階	上市 地域・作物拡大
殺虫剤				
フルペンチオフェノックス (バネンタ®)	殺ダニ剤			
殺虫剤A	水稲用殺虫剤			
殺虫剤B	水稲・園芸用殺虫剤			
殺菌剤				
殺菌剤A	水稲用殺菌剤			
殺菌剤B	果樹・野菜用殺菌剤			
殺菌剤C	畑作用殺菌剤			
除草剤				
エフィーダ®	ムギ用除草剤			
除草剤A	畑作用除草剤			
微生物農薬・バイオスティミュ				
Rhizobium vitis ARK-1株 (エコアーク®)	根頭がんしゅ病防除剤			
微生物農薬A	果樹・野菜用防除剤			
微生物B	バイオスティミュラント			

# 本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- Ⅱ. 2024年10月期 第2四半期実績
- Ⅲ. 2024年10月期 業績予想の修正
- IV. アクシーブの見通し
- V. 新剤・新技術の開発状況
- VI. 気候変動・環境負荷の低減
- WI. 質疑応答



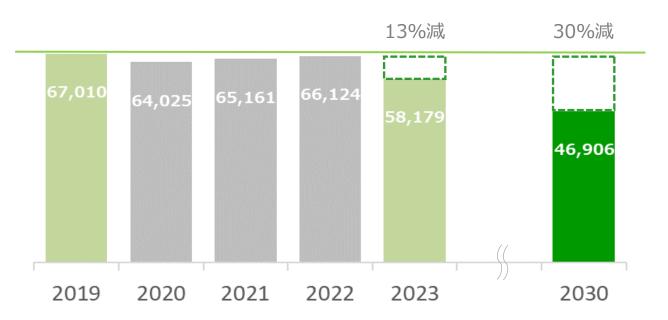
### 気候変動への対応

### GHG排出量を2030年度までに2019年度比 30%減 目標

### 2023年実績は 13%減 と順調に推移

- 重油からLPガス等GHG排出量の少ない燃料への転換
- CO2フリー電力への切り替えがほぼ完了

#### GHG排出量および削減目標(t-co2)



### 生物多様性維持への貢献

### 30by30アライアンスへの参加

- 生物多様性の保全に貢献する「30by30アライアンス」に参加(2023年12月)
- **自然保護区域**を設置し、地域の生物多様性や豊かな景観を維持

### ■クミカレフュジア福島町(北海道)

- ・約640haの山林の適正な管理
- ・間伐材の自社有効活用

#### ■クミカレフュジア菊川(静岡県)

- ・3,030㎡のビオトープ建設(2025年完成予定)
- →市街地に里山の景観を再現、環境保全教育の場として活用



30by30アライアンス…「30by30」は生物多様性の損失を食い止め、回復させるというゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標であり、G7で2021年に合意された内容。環境省が推奨している「30by30アライアンス」は、目標達成に向けた取り組みを行う有志を参加メンバーとする枠組み。



#### () クミアイ化学工業株式会社

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性など について保証するものではありません。

> <お問い合わせ先> クミアイ化学工業株式会社 経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください https://ir.kumiai-chem.co.jp/